

# 令和4年度 基本施策評価シート

作成日 令和4年6月29日

基本施策	D4 人と自然が共生する環境をつくります		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 図	
	市民・事業者・行政等、すべての主体が	自然と共生する社会の実現へ向け取り組んでいる。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ		109ページ ~ 110ページ	
基本施策主管課名	環境政策課	所属長名	執行 毅
関係課名	水産農林政策課、農林振興課、土木防災課、北総合事務所地域整備課		

## 基本施策の振返り

後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み (H28~R3年度)	
個別施策	D4-1	自然環境の保全を図ります	
ア 野生生物の貴重な生息生育環境であり、市民の自然とのふれあいの場である里地、里山、里海の保全及び活用	⇒	(ア)間伐材等の森林資源の有効活用 (イ)市有林における森林保護(間伐、下刈、作業道開設) (ウ)自然環境に配慮した河川整備(大井手川)	
イ 地域ぐるみでの、野生生物の生活地域への被害防止対策	⇒	(ア)有害鳥獣に対する緩衝帯及び侵入防止設備の整備	
ウ 希少動物の生息、生育環境の保全	⇒	(ア)長崎市自然環境調査員による希少動植物及び外来生物等の調査 (イ)自然環境に配慮した河川整備(大井手川) (ウ)ホタルの飛翔情報の発信と、全市一斉ホタル飛翔調査の実施 (エ)レッドリストの改訂	
個別施策	D4-1	自然環境の保全を図ります	
ア 自然とのふれあいの場の整備や市民参加型・自然体験型イベントの充実	⇒	(ア)親子環境教室の開催 (イ)相川休耕田、黒崎永田湿地自然公園での自然観察会 (ウ)自然環境に係る出前講座 (エ)体験の森の森林体験館の利用提供 (オ)いこいの里の自然体験プログラムの実施 (カ)自然環境に配慮した河川整備(大井手川)	



成果及び効果(H28～R3年度)		
個別施策	D4-1	自然環境の保全を図ります
①自然環境保全への取り組み		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐等の森林施業の実施により、林内の適度な光の射し込みや通風が確保されたことで、造林木の育成や下層植生の生育が促進され、水源かん養や土砂流失防止等の森林の公益的機能の充実が図られた。</li> <li>・間伐材を利用した木製品等を製作し、学校図書館など公共施設等へ提供(計画期間中1,320個)することで資源の有効利用や木材の良さや魅力等を伝えることができた。</li> <li>・公共施設の建築、改修計画の把握を行うことで、木材利用の促進を図った。</li> <li>・長崎市自然環境調査委員による年次的な希少動植物及び外来生物等の調査を実施し、今後の自然環境保全のための資料とすることができた。</li> <li>・大井手川の河川整備は、環境保全積ブロックの設置等、防災性向上に合わせて自然環境への配慮が図られ、河川の自然環境保全につながった。</li> <li>・有害鳥獣との棲み分け対策として緩衝帯を整備(計画期間中2箇所)することで、有害鳥獣鳥獣からの被害を防止し地域との共生を図る環境づくりに寄与した。</li> </ul>		
②自然環境の周知・啓発		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルの飛翔状況の情報提供を行うことにより、身近な場所に残されている自然に対する保全意識の向上につながった。</li> <li>・レッドリストを改訂(平成30年3月)し、市内に生息する希少生物の情報発信を行った。</li> </ul>		
個別施策	D4-2	自然とふれあう場と機会を創出します
①自然とふれあう機会の創出		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子環境教室の開催(計画期間中計23回)により、山・川・海における自然体験の中で、自然とふれあいながら自然環境保全の大切さを知ることができた。</li> </ul>		

問題点とその要因(H28～R3年度)		
個別施策	D4-1	自然環境の保全を図ります
①自然環境保全への取り組み		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐等の森林施業を実施した森林については公益的機能の充実が図られているものの、全体としては、林業従事者の高齢化や減少、生産経費の高騰等による経営意欲の減退等により、維持管理が行われない森林が増加し、森林の公益的機能の低下や自然環境の維持・確保について懸念される。</li> <li>・希少種や外来生物に対する情報発信が十分でないため、希少種の生育環境の確保や外来種への適切な対応が十分でない。</li> <li>・有害鳥獣対策の棲み分け対策は継続管理が課題であり、また、有害鳥獣の生息域の広域化に伴い生活環境被害が増加している。</li> </ul>		

## 今後の取組方針

※【】内は五次総合計画における個別施策

D4-1

- ①自然環境保全への取組み → 【D3-1 豊かな自然環境を保ち、自然との共生を図ります】
- ・森林の持つ多面的機能を発揮させるため、適切な管理が必要な森林の整備促進及び利用促進を図る。
  - ・希少動植物の生育環境の確保や外来動植物への適切な対応についての市民への周知・啓発を図り、豊かな生態系の保全に努める。
  - ・引き続き、有害鳥獣について、「防護」、「捕獲」、「棲み分け」の3対策を推進する。

D4-2

- ①自然とふれあう機会の創出 → 【D3-1 豊かな自然環境を保ち、自然との共生を図ります】
- ・市民や関係団体等と連携し、自然環境保全に取り組むとともに、市内に存在する自然を活かし、多くの市民が自然や生物多様性の価値、恩恵を学び、自然とふれあう機会の創出を図る。

## 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
森林整備面積 (植林、枝打ち、間伐等) [累計]	2,093ha (26年度)	↑ 目標値	2,493	2,693	2,893	3,093	3,293	3,493
		↑ 実績値	2,505	2,773	3,022	3,260	3,602	3,906
		↑ 達成率	100.5%	103.0%	104.5%	105.4%	109.4%	111.8%
ホテル飛翔定点確認 箇所数	80箇所 (26年度)	↑ 目標値	82	81	81	81	81	81
		↑ 実績値	80	78	78	79	77	77
		↑ 達成率	97.6%	96.3%	96.3%	97.5%	95.1%	95.1%

## 基本施策の評価

Bd 目標をほぼ達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などが遅れている

判断理由

- ・基本施策の成果指標のすべてが95%以上の目標達成率となったことから、「B」とする。
- ・個別施策の成果指標2つすべてにおいてコロナ禍における影響が大きく100%未満の目標達成率となったことから「d」とする。

## 二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Bd」については所管評価のとおり。
- 「問題とその要因」のD4-1「①自然環境保全への取組み」において、農業者などにとって大きな問題である「有害鳥獣」に関して明記されていないことから、今後の取組み方針も含め、しっかりと明記すること。
- D4-1「①自然環境保全への取組み」のうち間伐等による森林環境の整備に関し、「成果及び効果」と「問題点とその要因」に関し整合性が取れていないことから、分析の上、整合性を図ること。
- いこいの里の取組みについては、こども部で全天候型の子ども遊戯施設を設置する予定としているが、今後のいこいの里の目的などがどのように変更となるのか、説明できるように整理しておくこと。

## 令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	D4-1	自然環境の保全を図ります		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図		
	市民・事業者・行政等、すべての主体が	生物多様性の保全に取り組んでいる。		
個別施策主管課名	環境政策課	所属長名	執行 毅	

### 令和3年度 of 取組概要

- ①自然環境保全への取組み
- ・市有林において、森林経営計画等に基づき、間伐や下刈、作業道開設を行った。
  - ・長崎市産材など地域産材を積極的に活用するため、市有林の間伐材で制作した木製品等をふれあいセンターなど公共施設等へ提供する取り組みや一般市民への販売を行った。【C5-3から再掲】
  - ・長崎市自然環境調査委員による年次的な希少動植物及び外来生物等の調査を実施した。
  - ・二級河川大井手川の河川改修工事において、引き続き自然環境に配慮した河川整備を行った。【D4-2へ再掲】
  - ・「防護」「棲み分け」「捕獲」の3対策を柱に、有害鳥獣対策の地域ぐるみの取り組みを推進するため、特にワイヤーメッシュ柵の整備や計画的な捕獲体制の強化に取り組み、農作物被害及び生活環境被害軽減を図った。
- ②自然環境の周知・啓発
- ・「親子環境教室」については、小中学生とその保護者を対象に3回開催した。【D4-2、D5-1へ再掲】
  - ・自然環境保全のパロメーターとして、ホタル飛翔調査を実施し、調査結果をもとに「ながさきホタルマップ」を作成し、市のホームページにおいて情報発信を行った。
  - ・外来種リストの更新に向け、自然環境調査委員会を開催し情報収集を進めた。

### 評価(成果)

- ①自然環境保全への取組み
- ・間伐等の森林施業の実施により、林内の適度な光の射し込みや通風が確保されたことで、造林木の育成や下層植生の生育が促進された。
  - ・間伐材を利用した木製品等を製作し、ふれあいセンターなど公共施設等へ提供する取り組みを推進することで資源の有効利用や木材の良さや魅力等を伝えることができた。【C5-3から再掲】
  - ・公共施設の建築、改修計画の把握を行うことで、木材利用の促進を図った。
  - ・長崎市自然環境調査委員による年次的な希少動植物及び外来生物等の調査を実施し、今後の自然環境保全のための資料とすることができた。
  - ・大井手川の河川整備は、環境保全積ブロックの設置等、防災性向上に合わせて自然環境へ配慮した整備区間が令和4年度に完了する。【D4-2へ再掲】
  - ・地域ぐるみの取り組みの推進により、有害鳥獣捕獲(捕獲隊)の組織数が、前年度の107組織から117組織に増加した。
- ②自然環境の周知・啓発
- ・親子環境教室の開催により、山・川・海における自然体験の中で、自然とふれあいながら自然環境保全の大切さを知ることができた。【D4-2へ再掲】
  - ・ホタルの飛翔状況の情報提供を行うことにより、身近な自然に対する保全意識の向上につながった。

### 評価(問題点とその要因)

- ・間伐等の森林施業を実施した森林については公益的機能の充実が図られているものの、全体としては、林業従事者の高齢化や減少、生産経費の高騰等による経営意欲の減退等により、維持管理が行われない森林が増加し、森林の公益的機能の低下や自然環境の維持・確保について懸念される。
- ・希少種や外来生物に対する情報発信が十分でないため、希少種の生育環境の確保や外来種への適切な対応が十分でない。
- ・有害鳥獣対策の棲み分け対策は継続管理が課題であり、また、有害鳥獣の生息域の広域化に伴い生活環境被害が増加している。

## 今後の取組方針

### ①自然環境保全への取組み

- ・長崎市自然環境調査委員による年次的な希少動植物及び外来生物等の調査を引き続き実施し、調査結果の積極的な活用を図る。
- ・希少種の保護に向け、周辺市民や関係団体等と連携し、実態調査、生息・生育環境の保全を図る。
- ・森林の持つ多面的機能を発揮させるため、適切な管理が必要な森林の抽出や整備の優先度等を検討し、森林の整備促進を図っていく。
- ・木材の良さに触れてもらい、森林資源の有効利用や魅力を伝える等の地域産材のPRに取り組む。【C5-3から再掲】
- ・引き続き、有害鳥獣について、「防護」、「捕獲」、「棲み分け」の3対策を柱に、地域ぐるみの取組みを推進するとともに、生活環境被害対策については、現対策と併せ、市街地全体を守る包括的な視点より、広域防護柵の設置に新たに取り組む。

### ②自然環境の周知・啓発

- ・「親子環境教室」を継続して実施し、自然環境に対する意識の高揚を図る。【D4-2、D5-1へ再掲】
- ・ホテルを含めた生物多様性の重要性について、市民の関心を高めるための広報・啓発に取り組む。

## 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
自然環境保全団体加入者数	642人 (26年度)	↑ 目標値	862	972	1,082	1,192	1,300	1,410
		↑ 実績値	729	1,192	1,150	1,115	1,263	1,292
		↑ 達成率	84.6%	122.6%	106.3%	93.5%	97.2%	91.6%

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:D4-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	<p>(事業名) 自然環境保全推進事業 【環境政策課】</p> <p>(事業目的) 長崎市の豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、自然環境の保全と市民への周知・啓発を図る。</p> <p>(事業概要) 長崎市自然環境調査委員による希少動植物の調査や人と自然とがふれあえる場の保全や自然体験学習の場を確保する。</p>	成果指標	ホタル飛翔定点確認箇所数
		目標値	81 箇所
		実績値	77 箇所
		達成率	95.1 %
		決算(見込)額	1,981,500 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>自然環境保全のバロメーターのひとつとして、ホタルの飛翔状況は重要であることから成果指標とした。市域の主要な81箇所の定点において、ホタルの飛翔が確認できた箇所数を目標値とした。</p>
2	<p>(事業名) 間伐材活用促進費 【農林振興課】</p> <p>(事業目的) 市有林の間伐材等の有効活用を図るとともに、地域資材のPR及び森林資源の有効活用を図る。</p> <p>(事業概要) 市有林の間伐材等を板材や角材等に製材し、資材の提供や木製品を製作し、市施設や自治会等公共的施設等へ提供及び貸出しを行う。 また、一般市民への販売も行う。</p>	成果指標	間伐材の利用本数
		目標値	1,000 本
		実績値	463.0 本
		達成率	46.3 %
		決算(見込)額	8,654,650 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>間伐材の年間使用本数を成果指標とした。過去(H20、H21)の使用本数の平均値を目標とした。</p> <p>(取組実績)                      &lt;公共施設等への提供&gt;                      フラワーポット …81基                      バンコ椅子 …95脚                      ブックラック …13台                      楕円テーブル …6台                      その他特注製作や資材として提供</p> <p>&lt;販売&gt;                      フラワーポット資材…45基分                      木材市場出荷 …246.651m3                      うち一般建築材 38.931m3                      バイオマス材 207.72m3</p> <p>(成果・課題等)                      市有林の間伐材等を活用し、公共施設等での木材利用に取り組んだ。                      一般建築材等として曲がり等により、不向きな材が多く、バイオマス材としての出荷が多かった。</p>

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:D4-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
3	(事業名) 【補助】山林整備事業費(公有林)	成果指標	年間整備面積
	【農林振興課】	目標値	30.0 ha
	(事業目的) 市有林の森林資源の有効活用と公益的機能の充実に図るため整備を実施する。	実績値	17.6 ha
	(事業概要) 集約化実施計画及び特定間伐等促進計画、森林経営計画に基づき、間伐等の保育、道路網等の整備を実施する。 【市直営林面積】A=1,035.18ha	達成率	58.7 %
		決算(見込)額	16,935,786 円
		成果指標及び目標値の説明	長崎市有林の年度毎の森林整備(保育等)面積を成果指標とした。 過去の森林整備面積の平均値を目標とした。
	取組実績、成果・課題等	(取組実績) 利用間伐 ……6.93ha 下刈り ……8.56ha 防火広場手入れ ……0.54ha 防火線手入れ ……1.56ha 小計 17.6ha 森林作業道開設 ……2,024m  (成果・課題等) 利用間伐について、予定箇所が急峻な地形で木の生育が悪く、利用できる木が少なかったため、事業実施面積が減少した。 今後も、利用間伐が主体となるため、搬出道の計画に併せた森林経営計画の策定を行い、計画的に森林整備を実施する必要がある。	

## 令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	D4-2	自然とふれあう場と機会を創出します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 象 図		
	市民が	自然とふれあうことで、安らぎや潤いを感じている。		
個別施策主管課名	環境政策課	所属長名	執行 毅	

### 令和3年度 of 取組概要

①自然とふれあう機会の創出

- ・「親子環境教室」については、小中学生とその保護者を対象に3回開催した。【D4-1から再掲】
- ・相川休耕田において、幼稚園児～大学生等を対象とする学習会・研修会を実施し、希少動植物とのふれあいを通して環境保全意識の向上を図った。
- ・黒崎永田湿地自然公園において、主に小学生を対象とした生物を鑑賞するイベントを企画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施することができなかった。
- ・体験の森の森林体験館、休養宿泊施設、キャンプ場、運動広場等の施設において利用提供を行った。
- ・森林体験学習において、里山清掃などのイベントを企画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止することとなった。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、いこいの里において、土と自然に親しみながらレクリエーションができるよう、様々な体験プログラムを実施することができず、市民・団体による体験プログラムも減少した。
- ・二級河川大井手川の河川改修工事において、引き続き自然環境に配慮した河川整備を行った。【D4-1から再掲】

### 評価(成果)

①自然とふれあう機会の創出

- ・親子環境教室の開催により、山・川・海における自然体験の中で、自然とふれあいながら自然環境保全の大切さを知ることができた。【D4-1へ再掲】
- ・体験の森の森林体験館等の施設で森林体験学習(8回 291人参加)を開催し、森林の大切さを伝える森林体験を提供したことで、市民の自然環境保全における森林及び林業の重要性の啓発や、自然愛護意識の高揚が図られた。
- ・大井手川の河川整備は、環境保全積ブロックの設置等、防災性向上に合わせて自然環境へ配慮した整備区間が令和4年度に完了する。【D4-1から再掲】

### 評価(問題点とその要因)

- ・新型コロナウイルス感染対策に係るイベントの中止等により、市民活動の成果やあぐりの学校(ワークショップ)の情報発信が十分ではないため、あぐりの学校(ワークショップ)への新規参加者が伸びていない。
- ・体験の森は運動広場の利用者数が多数を占めていることから、遠足利用の有無や、天候の影響を受けやすく、利用数の増減が著しい。

### 今後の取組方針

①自然とふれあう機会の創出

- ・「親子環境教室」を継続して実施し、自然環境に対する意識の高揚を図る。【D4-1から再掲】
- ・体験の森については、今後も親子参加型の自然体験型学習会などのイベント実施や地域・団体等との協働による事業(里山清掃・森林清掃等)を継続的に展開し、自然とのふれあいの場の提供を図っていく。
- ・いこいの里については、あぐりの丘の施設内において、市民協働による体験プログラムを含めてコロナ禍でも実施可能な体験プログラムを企画・検討し、来園者が更に土や自然にふれあうことができるように努め、指定管理制度導入後も若者及び高齢者を含む全ての世代に、豊かな自然及び多様な施設を活かした遊び、体験、交流等の場を提供する。また、里山地域においては、自然体験学習の場として、今後も継続して活動できるように努める。



## 成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
自然とのふれあい体験イベントへの参加者数	68,804人 (26年度)	↑ 目標値	71,100	72,250	73,400	74,550	75,700	76,850
		実績値	77,494	80,707	84,165	89,250	54,446	52,105
		達成率	109.0%	111.7%	114.7%	119.7%	71.9%	67.8%

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:D4-2】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	(事業名) 体験の森運営費 【水産農林政策課】  (事業目的) 指定管理者制度により、体験の森の管理運営を行う。  (事業概要) 1. 施設修繕 老朽化した施設等の修繕を行う。  2. 管理等委託 指定管理者制度により施設の管理運営を行う。	成果指標	利用者数
		目標値	25,000.0 人
		実績値	13,250.0 人
		達成率	53.0 %
		決算(見込)額	22,376,343 円
		成果指標及び目標値の説明	自然環境保全意識の向上のためには森林体験学習など親子での自然観察会や自然体験型学習会などへの参加者が重要であるため、成果指標とした。 H17～H21の5カ年平均を目標値としている。
取組実績、成果・課題等	(取組実績) 令和3年度末現在、施設利用者数13,250人親子参加型の自然体験型学習などのイベントを実施。  (成果・課題等) 新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、前年度とほぼ変わらず、目標値を下回った。		
2	(事業名) あぐりの丘運営費 (H24から「あぐりの丘体験費」を運営費に統合) (H26から「いこいの里施設整備事業費」を運営費に統合) 【農林振興課】  (事業目的) 1. いこいの里(あぐりの丘を含む)の施設の運営及び環境の維持管理 2. 市民及び来園者が、土と自然に親しみながら行うレクリエーション活動ができるよう様々な体験の場を提供する。  (事業概要) 1. 「施設の維持管理」の実施 施設・設備の維持管理、花・樹木管理、動物の飼育、園内清掃、施設・設備の修理 2. 「各種体験教室」の実施、ふれあい動物体験、収穫体験、フリーマーケット、飯ごう炊さん、幼稚園収穫体験、切りばら体験、他各種体験の実施 3. 市民協働の活動の支援、広報・宣伝	成果指標	利用者数
		目標値	68,058.0 人
		実績値	36,143.0 人
		達成率	53.1 %
		決算(見込)額	84,216,984 円
		成果指標及び目標値の説明	あぐりの丘における各種体験の提供に対して、参加者数が重要であることから、体験プログラム等の参加者数を成果指標とした。 基準値の61,314人(H22年度実績)から毎年1%の増加とした。なお、H25年度から市民協働による新たな運営の仕組みづくりの構築を開始し、市民主体による体験プログラムへの参加者数も加算することとした。
取組実績、成果・課題等	(取組実績) コロナの影響の中で、各種体験等の継続に努め、32種類の体験を実施した。また、市民協働の取組みでは、R2.7.22にあぐりの丘で活動する団体や個人が「あぐりネットワーク」を設立し、8の団体や個人が、延べ35回の体験教室を実施した。  (成果・課題等) コロナの影響で、各種体験イベントの縮小及び市民協働による活動者の体験プログラム数が大きく減少したため、昨年度の参加者数の実績値が目標値を大きく下回った。		